「読経の声」

本山単頭　柴田康裕老師

ある日、檀信徒の佐藤さんから電話がありました。

「和尚さん、明日お参りに来てくれませんか。」

その日はご先祖さまの命日でもなく、法事を営むということでもありませんでしたが、特にその理由もうかがわないまま、翌日、私は佐藤さんのお宅に行きました。

すると、そこには出産のために帰省された娘さんがおられて、佐藤さんと一緒に私を出迎えてくれました。その娘さんは、高校を卒業すると、そのまま上京して就職をされましたので、しばらくお会いすることはありませんでした。大きなおなかを抱えながら、幸せそうにほほえむ娘さんの姿を拝見して、小学生対象の坐禅会に参加した時の面影を偲びながら、懐かしさとともに、心和む思いがしました。

佐藤さんは、「もうすぐ赤ちゃんが生まれますが、おなかの子供に和尚さんのお経の声を聴かせたいと思ったんです。」とおっしゃいました。

早速、お仏壇の前に座り、いつものようにお灯明を灯し、お線香を上げて、20分ほど読経させていただきましたが、その間、娘さんは手を合わせて、一心にお仏壇を拝んでおられました。

読経が終わると、娘さんは「気持ちがスッとしました。」とおっしゃいました。初めての出産ということもあり、漠然とした不安のようなものがあったのかもしれません。

瑩山禅師さまのお母さまは、瑩山禅師さまを身ごもられますと、毎日欠かさずに観音さまに礼拝され、『観音経』をお唱えになられました。そして、そのことが瑩山禅師さまのご生涯に大きな影響を与えました。

お経の言葉は、お釈迦さまのみ教えを伝える真実の言葉です。その言葉をお唱えするということは、お釈迦さまに代わって真実の言葉を語ることでもあります。

涼やかな秋の風が境内を颯爽と吹き抜ける中、大祖堂では朝夕の勤行（ごんぎょう）がいつもと変わることなく行じられております。読経の響きが、多くの人々の心に安らぎをお届けできますように、真心をこめてお唱えしたいと思います。